

令和元年6月25日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03913

研究課題名(和文) 社会的企業による介護・医療供給の評価とその測定方法に関する国際共同研究

研究課題名(英文) International research of social enterprise as medical and eldercare provider

研究代表者

山井 弥生(斉藤弥生)(Yamanoi, Yayoi)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：40263347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はサードセクター研究で著名なVictor Pestoff氏との共同研究である。研究の目的は社会的企業による介護と医療供給を評価するための指標をつくることであった。Pestoff氏がスウェーデンの保育所を対象に行ったWECSS調査の指標を用いて質問票をアレンジし、それを用いて、日本で医療や介護を提供する協同組合、公立病院、民間病院を対象に、職員調査、利用者調査、ボランティア調査を実施した。その結果、職員調査では約7000件、利用者調査約600件、ボランティア調査約200件のデータベースを完成し、社会的企業としての協同組合による医療と介護が生み出す社会的価値とその創造機能を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療や介護サービス供給では営利企業の供給シェアが拡大している。多元主義は政府、非営利、営利の競争により質の高いサービスを目指すものであったが、営利企業による市場の寡占化が懸念される。バランスあるサービス市場のためにも、非営利部門による潜在的な社会貢献を明確にし、その社会的な存在意義を示す作業が必要であり、本研究はその役割を果たしている。

日本の協同組合医療は1919年に島根県青原村で始まり、専門職と地域住民の協働で、医療供給だけでなく、地域の発展に貢献し、その歴史は世界的にも注目される。本研究は日本に残る協働の文化を世界に発信し、地域医療や介護の意味を数値で示そうとする数少ない試みである。

研究成果の概要(英文)： This research is a joint research with Prof. Victor Pestoff (Ersta Skondal Bracke University College) who is a leader in third-sector research, and the purpose of the research is to evaluate eldercare and health care service produced by social enterprises.

We revised the questionnaire of WECSS survey which Pestoff conducted for childcare in Sweden, and we used it for our surveys. We asked staffs, users and volunteer in eldercare and healthcare of cooperatives, public hospitals and private hospitals to answer the questionnaire. We succeeded to have database with 7000 responses of staffs, 600 response of users and 200 responses of volunteers. This database contributes to analyze that social enterprise could produce not only eldercare and healthcare service but also many kinds of social value.

研究分野：社会福祉学

キーワード：社会的企業 ペストフ 協同組合 高齢者介護 地域医療 サービスの質 量的調査 社会的価値

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の斉藤と共同研究者(研究協力者)の Victor Pestoff 氏が共同で実施した過去のフィールド調査では、日本の市民セクターにおける事業者(特に協同組合)は、介護や医療サービスを提供する(outputs)だけでなく、多数の社会価値の創造(outcomes)が明らかとなった。例えば JA 長野厚生連佐久総合病院(佐久市)は故若月俊一院長のリーダーシップのもと、日本の医療政策に影響を与える数多くの取り組みを行ってきた。「農民とともに」という基本理念を掲げて展開した「出張診療」「文化活動」「全村健康管理運動」は佐久病院の医療活動の特徴であるが、Pestoff の「共同生産」概念を用いると、地域ケア科が行う在宅での終末医療は専門職(医師・看護師・介護職員等)と利用者(本人や家族、地域住民)による「共同生産」ということができる。なぜならば終末期医療は本人や家族の意思があってこそ成立するからである。また健康管理活動、地域における多職種との協働によるネットワーク組織の構築は、地域において在宅の終末期医療を普及させるための地域医療政策の一環であり「共同統治」(co-governance)である。同様に南医療生活協同組合(名古屋市)の活動は、1959年の伊勢湾台風で5000人の命が失われた地域で、住民たちの出資でできた診療所から始まった。南生協病院を中核に、海外でも注目される班会(HANKAI)と呼ばれる小規模グループ活動をベースに地域に6万人もの組合員を持ち、認知症高齢者向けグループホームの運営、また在住外国人を対象にした健康管理運動等も展開している。

また JA 厚生連と医療生協は戦後、それぞれの法律体系で運営されてきたが、日本の協同組合医療のルーツをたどれば1990年に主にドイツの都市信用組合システムをモデルの考え方を輸入して、産業組合法が協同組合設立の根拠法となった。また日本の医療制度は1874年医制に始まり、「一府県あるいは有志の人民協同して病院を建設せんと欲する時...許可を受くべし」として自由開業制が前提となっていた。1919年島根県青原村に初めての協同組合医療が誕生した。ほぼ100年後に成立した介護保険法(2000年施行)とNPO法(1998年)の関係とよく似ている。つまり日本の社会的企業のルーツは協同組合医療にあると考えることもできる。

これまでの研究成果の発展に向けて：JA 厚生連と医療生協の9組織を対象に調査を進める中で、申請者らはPestoffがスウェーデンで実施し注目されたWECSS調査を日本で実施する計画を立てた。WECSS調査はスウェーデン統計局が採用する調査方法を踏襲しており、信頼性が高い上に、Pestoffは「労働環境」視点を加えている。さらに本研究では社会的企業による医療・介護供給の「社会的価値」視点を加え、日本の状況を踏まえた調査枠組みを設定することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会的企業が供給する介護・医療サービスが生み出す社会的価値に注目し、その価値を測定する方法を確立することであった。多くのヨーロッパ諸国において、介護の民間委託や市場化は営利企業の寡占化を招き、福祉多元主義の理想とは異なる方向に進んでいる。ヨーロッパのサードセクター研究で知られるPestoff(2008)はこの状況に警鐘を鳴らしており、市民セクターの社会的企業による介護・医療の可能性を明らかにし促進することで、バランスのとれた福祉多元主義が貢献できるとする。Pestoffはこれまでの研究で、社会的企業による福祉サービス(介護・保育)の質が高いことを科学的な手法で検証してきた。本研究ではPestoffの分析視点をふまえた質問紙調査を行い、日本の社会的企業が供給する介護・医療の社会貢献について、またその普遍的価値について国際的に発信することであった。

3. 研究の方法

図1は本研究における調査の実施プロセスを示す。介護・医療を供給する協同組合および公立病院、一般病院を対象に、質問紙による「職員調査」「利用者調査」を実施し、データベースを作成し、参加する研究者それぞれの視点で分析を行った。表1は調査の実施プロセスを示す。本調査は2013年から継続しており、また三菱財団研究助成、大阪大学国際共同研究促進プログラムによる研究と連動している。本調査では2013年に協力団体を訪問し、基礎データを収集し、運営に関するインタビュー調査を実施している。

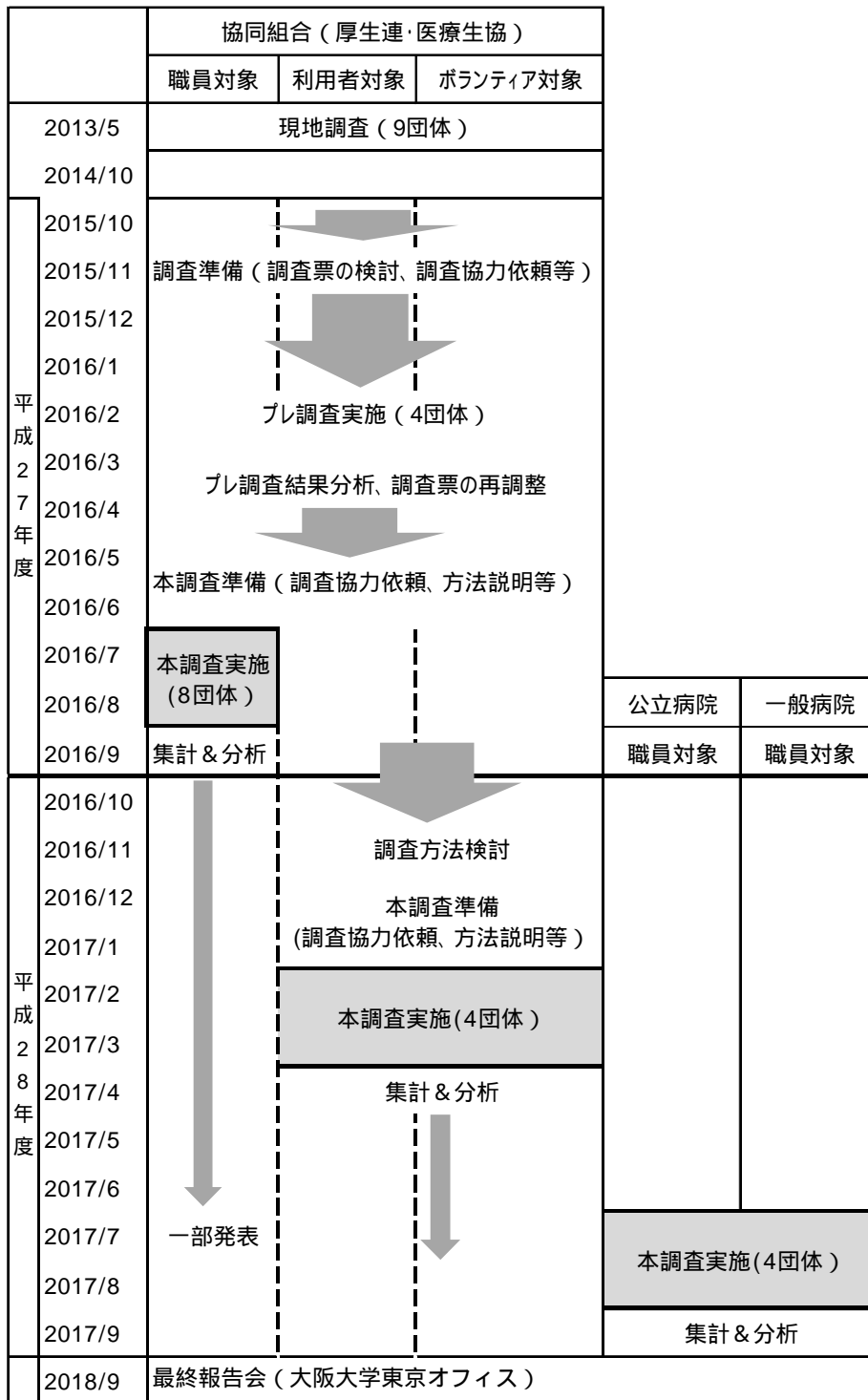


図1. 本研究における調査の実施プロセスの全体像

図2は本調査の分析枠組みである。この枠組みに基づいて質問紙調査を作成し、プレ調査を実施した上で調査に使用した。「職員調査」では職場としてその団体を選んだ理由、労働環境、仕事の満足度（待遇、やりがい等）、職場環境（ステークホルダーとの対話等）、提供するサービスの質、団体の社会貢献に関する項目を中心に設計した。「利用者調査」では、サービスに対する満足度、ステークホルダー間の対話、団体の運営や行事への参加、団体の社会貢献に関する項目を中心に設計した。「ボランティア調査」では、ボランティアの活動内容、サービスに対する評価、ステークホルダー間の対話、団体の社会貢献に関する項目を中心に設計した。

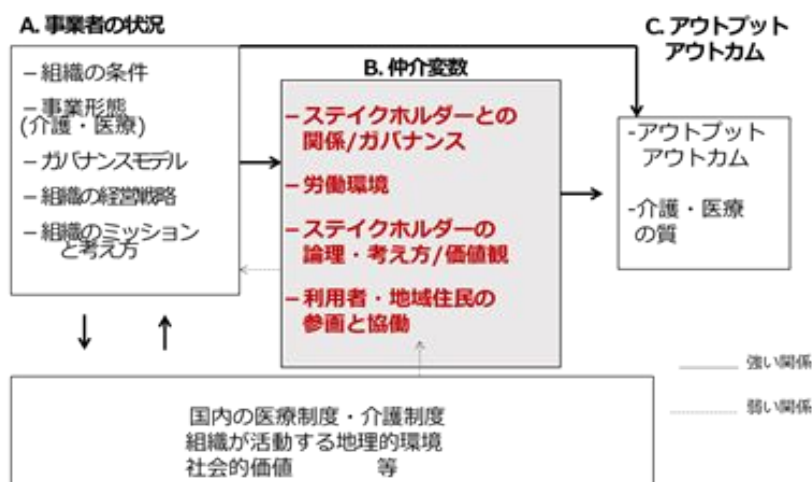


図 2. 本調査の分析枠組み

4. 研究成果

表1は、本研究で作成したデータベースのサンプル数である。

表1. 各調査で集まった有効回答数(サンプル数)

	JA 厚生連	医療生協	公立病院	民間病院
職員調査	2562	2852	1445	232
利用者 (患者)調査	114	517	-	-
ボランティア調査	64	172	-	-

本研究により、協同組合による医療・介護で働く職員、利用者(患者)、ボランティアのデータベースを完成したことは大きな成果であった。しかし公立病院、民間病院(医療法人)については、利用者、ボランティア調査を実施することが困難であった。これは今後の大きな課題である。

研究成果は研究者による分析となるが、協同組合による医療や介護の現場では、職員の仕事のやりがいや満足度が高いこと、また利用者、ボランティアとの対話が多くなされていることなどが明らかとなっている。このデータベースを用いて、本研究では、すでに国際学会で10件の研究報告を行っている。また今後は、広く一般に研究成果を広めるために、これらの論文を中心としたPestoff氏との共著(日本語、英語)の出版計画を進めている。

本研究は、全国厚生農業協同組合(JA厚生連)、日本医療福祉生活協同組合連合会、生協総合研究所、また調査の匿名性のため、名前をあげることができないが、公立病院、民間病院、各地で活動されているJA厚生連、医療生協の組合員、職員、利用者の皆様のご協力とご支援があってこそ実施が可能となったものである。

また日本の協同組合の制度や関連の法律については栗本昭氏(法政大学教授)、また調査票の設計については近本聡子氏(生協総合研究所主任研究員)の指導を受けた。

Kathleen Pestoff氏には、すべての調査、研究会に出席して、記録をとっていただき、貴重な意見をいただいた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

- 1) 斉藤弥生 (2019) 賀川豊彦とスウェーデン・デンマーク: 戦間期の北欧をみた日本人. 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻: デンマーク語・スウェーデン語研究室編. IDUN: 北欧研究. pp.225-236. (ISSN 0287-9042)
- 2) Saito, Y., (2018). Has the long-term care insurance contributed to de-familialization?: Familialization and marketization of eldercare in Japan, Christensen, K. and Pilling, D. *The Routledge Handbook of Social Care Work Around the World*, Routledge, pp.241-255. ISBN: 978-1-472-47945-7
- 3) Hildegard, T., Szebehely, M., Saito, Y., Ishiguro, N. (2017). Marketization policies in different contexts: Consequences for home care workers in Germany, Japan and Sweden. *International Journal of Social Welfare*. doi:10.1111/ijsw.12298 ISSN:1369-6866 (査読有)

〔学会発表〕(計11件) 国際学会10件、国内学会1件

- 1) 斉藤弥生. (2019.6.9). Co-Production 概念からみる「地域包括ケアシステム」: 協同組合による包括ケアの事例をもとに. 日本地域福祉学会第33回大会(岡山)(proceeding 無, 口頭発表)
- 2) Saito, Y. (2018.9.23). Communitarianism or New Public Governance? Findings from a Survey of Cooperative Health and Eldercare in Japan. The 5th International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA), Osaka, Japan. (proceeding 有, 口頭発表)
- 3) Pestoff, V. (2018.9.23). Work Environment and Service Quality in Japanese Healthcare. The 5th International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA), Osaka, Japan. (proceeding 有, 口頭発表)
- 4) Endo, C. (2018.9.22). Filling the care gap? The case of older people's participation in a healthcare cooperative. The 5th International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA), Osaka, Japan. (proceeding 有, 口頭発表)
- 5) Vamstad, J. (2018.9.22). Co-production in Japanese Health Care – for Service Quality or for Something Else? The 5th International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA), Osaka, Japan. (proceeding 有, 口頭発表)
- 6) Pestoff, V., and Saito, Y. (2018.7.10). Work Environment in Japanese Health and Eldercare Providers: exploring a model for better service quality. 13th International Conference on International Society for Third-Sector Research (ISTR), Amsterdam, the Netherlands. (proceeding 有, 口頭発表)
- 7) Pestoff, V., and Saito, Y. (2018.7.5). Work Environment in Japanese Health and Eldercare Providers: exploring a model for better service quality. The International Cooperative Alliance (ICA) 2018 European research Conference, Wageningen, the Netherlands. (proceeding 有, 口頭発表)
- 8) Saito, Y., Pestoff, V., Yamazaki, Y., Endo, C., Vamstad, J., Chikamoto, S., Teraguchi, T., and Sato, M. (June-July, 2017) *Co-production in Japanese health care cooperatives: Findings of the survey result*. The 6th EMES International Research Conference on Social Enterprise, Louvain-la-Neuve, Belgium. (proceeding 有, 口頭発表)
- 9) Pestoff, V., Saito, Y., & Vamstad, J. (June, 2016). *Co-production of Health and Elder Care: Cooperative models in Japan*. ISTR's 12th International Conference, Stockholm, Sweden. (proceeding 有, 口頭発表)
- 10) Pestoff, V., Saito, Y., & Vamstad, J. (December, 2015). *Co-production in Health and Elder Care. Democracy Conference: Challenge of Public Service & Community Solutions*, Tempe, USA. (proceeding 有, 口頭発表)
- 11) Pestoff, V., Saito, Y., & Vamstad, J. (June-July, 2015). *Co-production of Health and Elder Care: Cooperative models in Japan*. The 5th EMES International Research Conference on Social Enterprise, Helsinki, Finland. (proceeding 有, 口頭発表)

〔図書〕(計5件)

- 1) 斉藤弥生・石黒暢(2018) 市場化のなかの北欧諸国と日本の介護: その変容と多様性. 大阪大学出版会. pp.1-14. (ISBN978-87259-597-0)
- 2) 斉藤弥生 (2018). 高齢社会と日本の介護. 介護保険の現状. 国際比較から見た日本の高齢

者の意識 . 介護予防と家族支援 : ドイツの介護保険制度改革の視点 . NHK テキスト 社会福祉
セミナー 2018 年 10 ~ 2019 年 3 月 . NHK 出版 . pp.6-21. 第 31 巻通巻第 101 号
(ISBN978-4-14-910999-2)

- 3) 齊藤弥生 (2018) 賀川豊彦とスウェーデン . 岡澤憲芙監修・日瑞 150 年委員会編 . 日本・スウェーデン交流 150 年 : 足跡とこれから . 彩流社 . pp.59-70. (ISBN978-4-7791-2460-0)
- 4) 上野谷加代子・齊藤弥生 (2018) . 地域福祉の現状と課題 . 放送大学教育振興会 .
- 5) 齊藤弥生 (2017) . 高齢社会と日本の介護 . 介護保険の現状 . 国際比較から見た日本の高齢者の意識 , 福祉用具を考える . NHK テキスト社会福祉セミナー 2017 年 10 ~ 12 月 . NHK 出版 .

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名 : 遠藤知子

ローマ字氏名 : Endo, Chikako

所属研究機関名 : 大阪大学

部局名 : 人間科学研究科

職名 : 講師

研究者番号 (8 桁) : 00609951

(2) 研究協力者

研究協力者氏名 : ペストフ・ヴィクトール

ローマ字氏名 : Pestoff, Victor

研究協力者氏名 : ヴァムスタッド・ヨハン

ローマ字氏名 : Vamstad, Johan

研究協力者氏名 : 山崎由希子

ローマ字氏名 : Yamazaki, Yukiko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。